

第3学年 道徳科学習指導案

令和4年10月20日(木) 第5校時

- 1 主題名 仲間を守るきまり 内容項目【C 規則の尊重】
- 2 ねらい 主人公がなわとび大会の動画を載せるか載せないか葛藤する場面を通して、約束やルールがあってこそよりよい人間関係や集団生活が築けることに気付き、進んで守ろうとする態度を育てる。

教材名 「よろこびはだれに」(出典：彩の国の道徳「未来に生きる」埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、小学校学習指導要領の内容項目C「主として集団や社会との関わり関すること」の[規則の尊重]、第3学年及び第4学年「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること」をねらいとしている。これは、第1学年及び第2学年の「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること」を受け、第5学年及び第6学年の「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」へと発展していく。本指導内容は、生活をする上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことに関するものである。

第3学年及び第4学年の段階においては、気の合う仲間や集団の中にきまりをつくり、自分たちの仲間や集団及び自分たちで決めたことを大切にしようとする傾向がある。指導に当たっては、発達の特性を生かし、一般的な約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し、それらを守るように指導していくことが大切である。

また、今まで以上に、授業においてインターネットを介した学習の場面が増えているので、児童には、情報には様々な権利があることを理解させるとともに、これらの権利を守ることの大切さを考えさせたい。「きまりは守らなくてはいけない」ということは児童も分かっており、日常生活でも守ろうとしている。しかし、インターネットに関わる「権利」や「ルール」については難しいものと思われる。インターネットの活用は、一人一人がそのルールの意義や目的を理解した上で、それらを主体的に守り、よりよい集団や社会をつくっていくことが大切である。児童には、活用する際、自分の気持ちを優先するのではなく、相手の気持ちを考えながら約束やきまりを守っていくことの大切さを考えさせたい。そして、それらを進んで守ろうとする態度を育てていきたい。

(2) [redacted]

[redacted] 黙食や無言清掃、チャイム前着席など学校の約束を守って行動している児童が多い。中学年になり、授業と休み時間の切り替えも少しずつできるようになってきているとともに、「自分たちでやってみよう。」という意欲も高まってきている。また、児童同士でみんなが仲良く楽しく過ごすためには、どのようなきまりがあったらいいのか、係の人や友達と話し合い、約束を考え、学級に呼びかけてくれる児童も多くいる。しかし、約束をつくり、掲示をして継続的に呼びかけていてもなかなか守ることができない児童もいるのが現状である。

また、中学年になりタブレット端末を活用した学習も増え、児童も意欲的に調べ学習や発表に取り組むことができるようになってきた。6月に行われたプログラミングタイムでは、全校児童を対象にタブレット端末を使うときの約束を確認した。しかし、学習中に、教師の指示と違うことをしてしまう児童もいて、自分を優先してしまい、約束を忘れてしまうこともあった。

これまでの道徳科で学習した読み物教材「あめ玉」では、公共施設の使い方について考えた。「みんなが使う物や場所はみんなのことを考えて使う」「これからは公共施設を大切にしていきたい」と公共施設では約束を守らなければならないことに気付くことができ、5月に実施した町探検や10月に実施した社会科見学でもみんながルールを守り安全に取り組むことができていた。しかし、自分の気持ちを優先してしまう児童もいることから、本主題を取り上げ、約束やきまりの意義について、さらに考えさせていきたい。

そこで、本主題を学習するに当たり、一人一人がねらいに迫れるよう、以下の意識調査を行った。

本主題に関する意識調査 29名（9月26日実施）

●運動会「ソーラン節」での最高の演技を、インターネット（動画・画像）に載せたいですか。また、それはなぜですか。				
<ul style="list-style-type: none"> ・かっこいいし、みんなに見てほしいから。 ・一生懸命な姿を見てほしいから。 ・大成功だったから。 ・練習を頑張ったから。 	<table border="1"> <tr> <td>のせたい</td> <td>のせたくない</td> </tr> </table>	のせたい	のせたくない	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報 がばれて危ないから。 ・悪口を言われたらかわいそうだから。 ・知らない人に見られたくないから。
のせたい	のせたくない			
	<ul style="list-style-type: none"> ・少し恥ずかしいけど、みんなでやったから。 			

本学級の児童は、意識調査からも、自分の気持ちを優先してインターネットに載せるか載せないかを考えている児童が多いことが分かる。また、載せたくない児童の理由を見てみると個人情報流出の恐怖が理由で載せたくない児童が多く、友達のことを考えている児童はいなかった。また、葛藤している児童は少なく、どちらかの考えに偏っていることも意識調査から読み取れた。

そこで、本教材を通して、主人公の気持ちに自我関与させながら、葛藤させていきたい。嫌がっている友達がいるのに勝手に載せることはよくないことから、よりよい人間関係や集団生活のために約束やルールがあるのだと気付かせ、約束やルールを守っていこうとする態度を育てていく。

(3) 教材の特質や活用方法について

主人公が通う「わたしたち」の学校は、埼玉県なわとび大会に参加している。「かいとさん」が、長縄のこつをインターネットで見つけてきて、記録が出たら自分たちも動画を載せようと提案してきた。ある日、新記録が出てチームは喜びに包まれた。その後「わたし」は家で新記録が出たときの動画を見ながら、(私たちの動画もあの動画のように誰かの役に立つかもしれない。)と反対していた仲間の顔を思い浮かべながらも動画を載せることについて考えていた。翌日、先生からインターネットの使い方についての話があり、自分のしようとしていたことを思い出してドキドキした、という話である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の視点を中心に話し合い、ねらいに迫る。

① 動画を載せるか載せないか迷っている場面

本文の(わたしたちの動画もだれかの役に立つかもしれない。でも、……。)から、本文に描かれていない心の部分を考えさせる。嫌がっている友達がいるのに動画を載せたいと考えている主人公の姿から、約束やきまりは誰のためにあるのかを考えさせていく。

また、なぜ、インターネットに載せたいのか、または載せたくないのかについて、感情メーターを活用しながら理由を考えさせる。どちらの考えも認め共感できるようにし、自分と似ている考えの友達や、違う考えの友達との意見交流へつなげていく。そして、感情メーターを比べながら葛藤している「わたし」と「自分」の共通点や相違点を見つけ、自分事として考えを深めることができるようにする。

② 先生の話の話を聞いている場面

先生からインターネットの使い方のお話を聞いている場面を活用し、約束やきまりがあるとどんなよいことがあるのかを考えさせ、ねらいに迫る。また、約束やきまりを守ることで自分だけではなく、友達の生活を守ることもつながることに気付かせる。

また、タブレット端末やスマートフォン、ゲームの使い方等の様々な場面を想起させ、日常生活の自己を見つめることができるようにする。

③ 自分たちの身の回りにある約束やきまりについて考える場面

自分との関わりで考えられるように、身の回りにある約束やきまりについて想起させる。きまりを守ることの意義について話し合うことで、約束やきまりを守ることは、みんなが気持ちよく生活していくために必要だと気付くことができるようにする。

以上のことを踏まえ、「規則の尊重」についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して、自己の生き方についての考え方を深めるため、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	1 アンケート結果から、本時の学習		・先月行われた運動会に関連したアンケート結果を振り返	3分

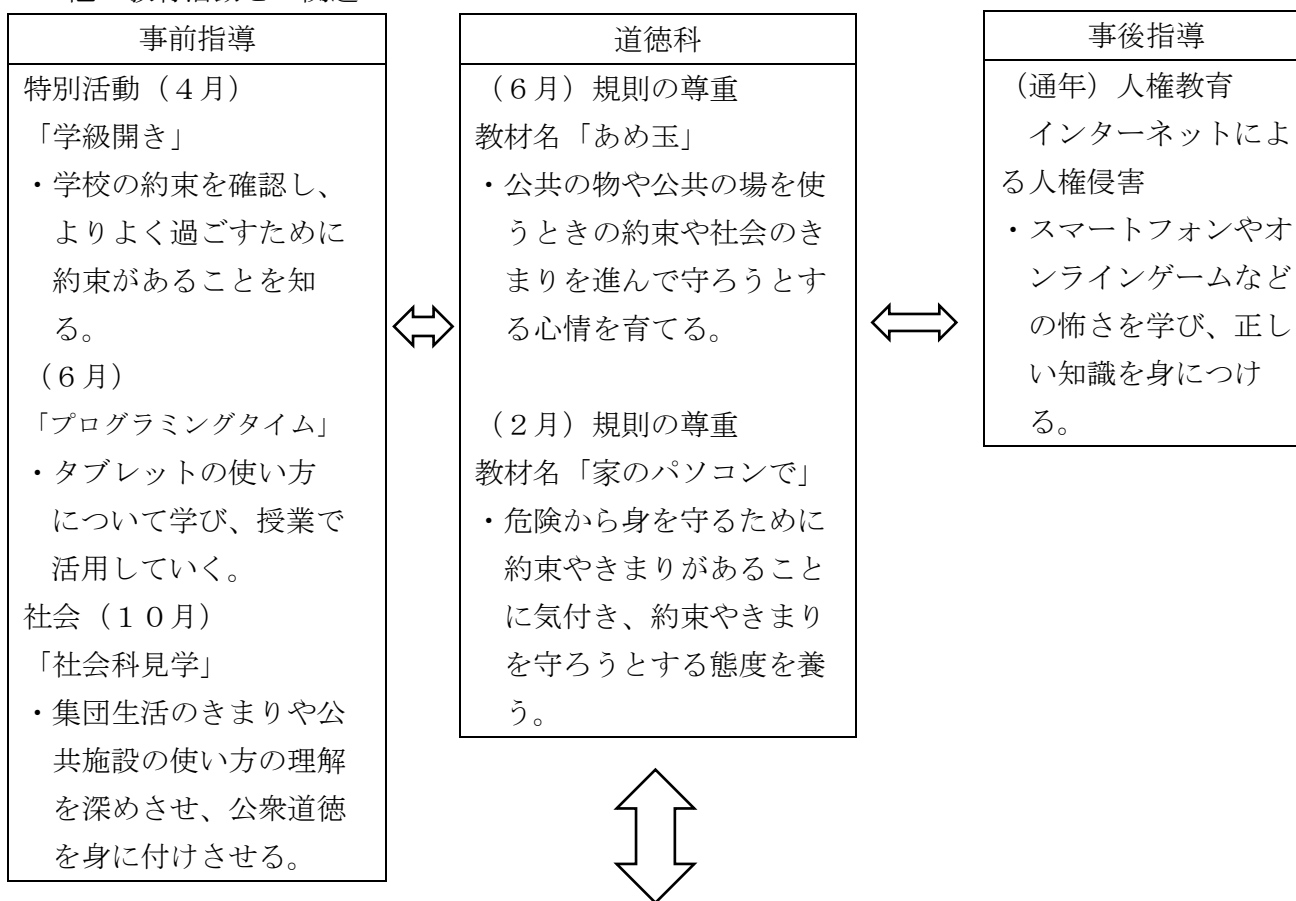
導入	<p>に結び付ける。</p> <p>○運動会「ソーラン節」での最高の演技を、インターネット（動画・画像）に載せたいですか。</p>	<p>載せたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最高の演技ができたから記録を残したい。 ・カッコいい姿をみんなに見せたい。 <p>載せたくない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしいから載せたくない。 ・インターネットに載せると危なそう。 	<p>り、教材の話と日常生活を結び付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にアンケートで集計した感情メーターを大型テレビに掲示する。 ・本教材では、インターネットの使い方を基に考えていくことを伝え、本時につなげていく。 	
展開	<p>2 教材の読み聞かせを聞き、話し合う。</p> <div data-bbox="252 958 871 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【登場人物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたし ・かいとさん ・クラスみんな ・先生 <p>【条件・状況】</p> <p>わたしたちは、埼玉県なわとび大会に参加するために一生懸命に練習をしている。ある日、新記録を達成することができ、その時の様子を動画に載せようかと悩んでいる。</p> </div> <p>○新記録を達成した「わたし」はどんな気持ちになったでしょう。</p> <p>○この話では、どんなことが問題になっていますか。みんなで話し合いた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・とても嬉しい。 ・一生懸命練習してきたよかった。 ・嫌がっている人がいるのに、自分の思いだけでインターネットに動画を載せよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に挿絵等を掲示しながら、条件・状況を確認していく。 ・登場人物の心の動きが捉えられるように、声の大きさ、抑揚、間等に留意して読み聞かせをする。 ・読み聞かせの途中で、新記録を達成したときの「わたしたち」の気持ちを押さえる。 ・努力の末の新記録達成に歓喜し、その喜びや感謝の気持ちをインターネットでも共有したいという気持ちに共感的に考えられるようにする。 ・授業で話し合いたい場面を児童から出させることで、主体的に課題について考えられるようにする。 	<p>5分</p> <p>2分</p> <p>3分</p>

<p>展開</p>	<p>いところはどこですか。</p> <p>3 本時の課題を確認する。</p> <p>○「わたし」はタブレットに向かいながら、どんなことを考えているのでしょうか。</p> <p>(補助発問) 「わたし」の気持ちをころもーターで表してみましよう。</p> <p>(補助発問) 自分が示したころもーターに似ている人や違う人に考えを伝えましよう。</p>	<p>としたところが問題。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットに載せるか載せないか迷っている場面が気になる。 <div data-bbox="587 548 1264 616" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>やくそくやきまりは何のためにあるのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張った姿を誰かに見てもらいたい。 ・でも、載せるのを嫌がっている友達もいる。 ・どうしよう。 <p>載せたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張った姿をみんなに自慢したい。 ・自分たちも誰かの役に立ちたいから載せたい。 <p>載せないほうがよい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットのことをあまり知らないし、載せてもいいのかな。 ・嫌がっている友達もいるからどうしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の(わたしたちの動画もどれかの役に立つかもしれない。でも、……。)の本文に描かれていない心の内を考えさせ、ためらう主人公の葛藤を考えられるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事(運動会)や学級行事(ドッジボール大会)の経験を想起させ、頑張ったときの姿を誰かに見せたいという主人公の気持ちと自分を重ねて考えられるようにする。 ・感情メーターを活用し、心情の見える化をする。感情メーターを大型テレビに映し、様々な考えがあることに気付いたり、自分と友達の考えの共通点や相違点を見付けたりさせる。 ・理由を明確にし、多面的・多角的に考えられるようにする。 ・どちらの考えも認めながら、人間のもつ心の弱さから葛藤して悩んでいることに気付かせる。 	<p>1分</p> <p>3分</p> <p>8分</p>
-----------	--	---	--	-------------------------------

	<p>○「わたし」は、先生の話聞きながらどんなことを考えていたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・載せなくてよかった。 ・インターネットに載せると、一生残ってしまうなんてとても怖い。 	<p>☆自分たちの動画が誰かの役に立ってほしいという動画を載せたい気持ちと、知らない人に見られてしまうのが嫌だから動画を載せたくないという気持ちについて、自分や友達の考えを基に、多面的・多角的に考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・載せない方が自分にとっても周りにとってもよいことに気付かせる。 ・嫌がっている友達がいるのに勝手に載せることはよくないことであることに気付けるようにする。 	5分
	<p>○学校生活にはどのような約束やきまりがありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスペースは走ってはいけない。 ・無言清掃をする。 ・時間を守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本教材はインターネットについて考えたが、日常生活から、様々な場面で約束があることを想起させ、自分事として考えられるようにする。 	2分
	<p>○約束やきまりを守るとどんなよいことがありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に生活することができる。 ・自分もみんなもよい気持ちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・約束やきまりを守るとは、みんなが気持ちよく生活していくために必要であるというように、考えを深められるようにする。 	7分
	<p>4 今までの自分を振り返り、よりよい生き方を考える。</p>			
	<p>○今までの自分を振り返り、これからの生活について考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを優先するのではなく、友達のこと考えた 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動を通して自分自身をしっかりと見つめさせ、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。 	5分

		<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使うときは、約束やきまりをよく考えてから使いたい。 ・みんなで気持ちよく生活できるように、約束やきまりを守りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り活動の前に本時の課題を確認してから、ノートに記入させる。 ☆インターネットの約束やきまりの意義を理解した上で、きまりを守ることについて、自分との関わりで考えている。 	
終末	5 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・説話を通して児童が主体的に約束やルールを守り、生活していこうと思えるように余韻を残す。 	1分

5 他の教育活動との関連



家庭・地域社会との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信と懇談会で、授業や学校生活、校外学習（町探検、社会科見学）での様子を伝える。 ・タブレットの活用について、児童の取組や頑張り、課題を知らせる。 ・パソコンやタブレット、スマートフォンやゲーム等の約束の徹底を家庭に呼びかける。学校と家庭での相互理解を図るとともに、保護者同士で話し合わせる場を設ける。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・自分たちの動画が誰かの役に立ってほしいという動画を載せたい気持ちと、知らない人に見られてしまうのが嫌だから動画を載せたくないという気持ちについて、自分や友達の考えを基に、多面的・多角的に考えている。

【道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・インターネットの約束やきまりの意義を理解した上で、きまりを守ることについて、自分との関わりで考えている。

7 板書計画

よろこびはだれに

やくそくやきまりは何のためにあるのだろう。

でも、のせるのをいやがっている友だちもいるからやめたほうがいいのかな。

でも、まわりにめいわくがかかるかもしれない。



のせたい

のせたくない

だれかの役に立ちたいから。
みんなに見てほしいから。

いやがっている友達もいるから。
インターネットにのせると
あぶないから。



- ・のせなくてよかった。
- ・インターネットにのせると、一生のこるなんてこわい。

約束やきまりを守ると
どんなよいことがあるか。

- ・安全に生活することができる。
- ・自分もみんなもよい気持ちになる。